

KOBELCO

KOBELCO

新春号

Jan.2025 Vol.267

コベルコ建設 機械ニュース

特集

お客様にいま伝えたい！
2025 コベルコ建機のカタチ



あなたとつくる、つなぐ、未来へ

あたらしい技術、培ってきた技術、たくさんあるけれど、

いちばん大切なのは、あなたを想う技術だ。

何度も考えて、お客様の声にとことん応えること、

たえず技術を磨いて、現場が働きやすい最先端を切り拓くこと、

さまざまな壁を乗り越えて、社会や地球にやさしいカタチにつなぐこと。

機械をあえてブルーグリーンにするのも、街に溶けこむ色にしたいから。

すべての“あなた”を想い、その思いの先まで考える。

そんな「ちょっとおせっかい」が、

きっとコベルコ建機らしい未来の目指し方。

さあ今日もあなたと。

コベルコ建機

コベルコ建設
機械ニュース

Jan.2025 Vol.267 新春号

〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 コベルコ建設機械ニュース編集部 ☎03-5789-2112

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機株式会社

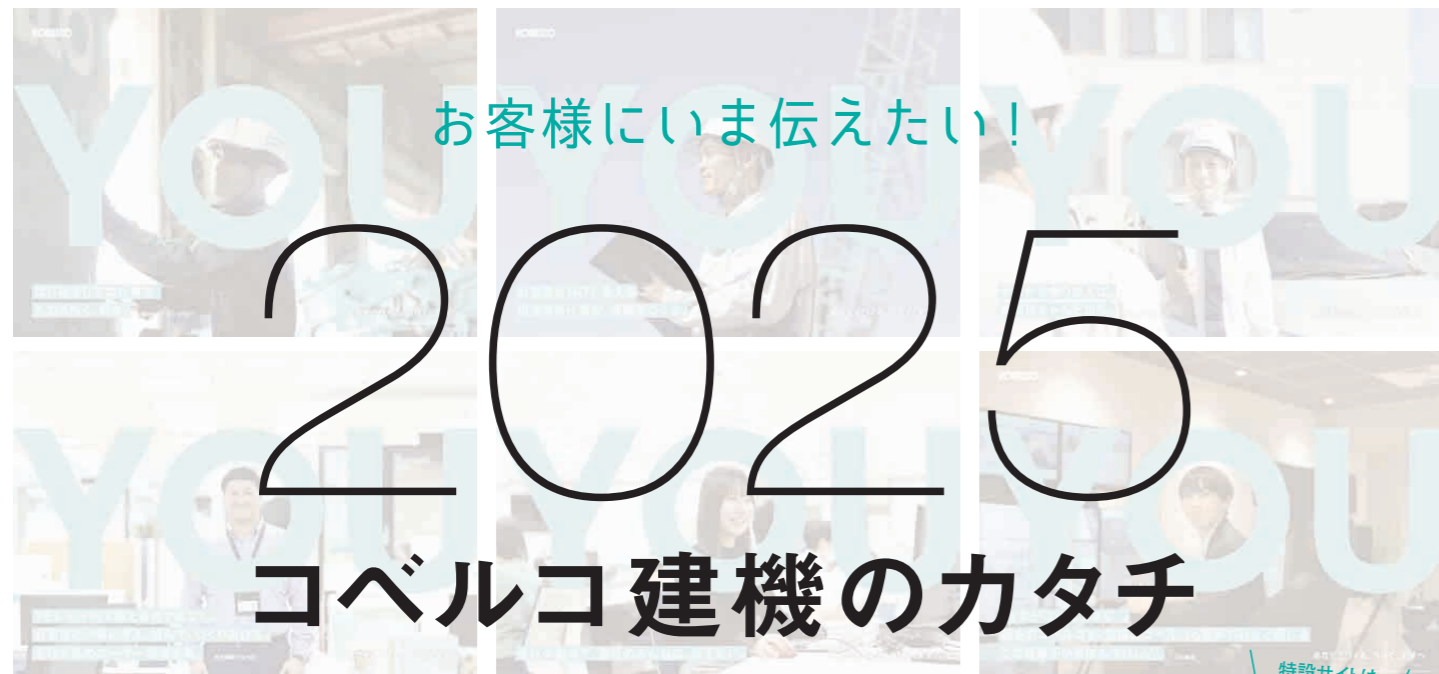


コベルコ建機
公式SNSは
こちらから



X

Instagram



お客様にいま伝えたい!

コベルコ建機のカタチ

神戸製鋼所の建設機械事業が独立し、同時に油谷重工、神鋼コベルコ建機が統合され、コベルコ建機株式会社として新たなスタートを切ったのが1999年。2024年、創立25周年を迎えるに当たり、同社では理念体系を整理し新たなフィロソフィーを策定した。その経緯や目的について、山本明代表取締役社長に話を聞いた。

山田高弘 = 取材・文 三浦伸一 = 撮影 (P3 ~ P8)
text by Takahiro Yamada / photographs by Shinichi Miura

特設サイトはこちら!



Part1 TOP INTERVIEW

ともに理念を共有し、全員が同じ未来を見据えるために

新たなフィロソフィーで、組織の求心力強化を目指して

山本社長がコベルコ建機の代表取締役社長に就任したのは2022年のことだ。就任後、まず目についたのは、社員同士でお互いの業務内容が把握しづらいという社内環境だった。当時は、モノだけでなくサービスを含めた複合的な価値を提供する「コト」ビジネスの推進を開始したばかりであり、その具体的な内容が社員に浸透していないという課題もあった。これらの問題を解決するため、山本社長はイントラネットの活用を推進し、社内での情報共有と「コト」ビジネスの理解向上に力を注いだ。

こうした取り組みを継続していく一方で、企業活動の根幹である理念体系の理解、社内共有について、社員たちの間に「新しいフィロソフィーをつくらう」という動きがあることを知ったという。

そこで、山本社長の頭に浮かんだのは、神戸製鋼所時代に自身が中心になって取り組んだブランディング業務だった。

「2012年頃だったでしょうか。所属していた溶接事業部門においてポリシーや思想を明確に表すフィロソ

フィーづくりに取り組み、その活動が現場の人たちに喜ばれ、一体感の醸成に役立った経験があります。コベルコ建機の社内にも、数年前からこうした機運が高まっており、社員たちが準備を整えていたということで、正式にゴーサインを出しました。もともと存在していた理念体系を整理し再定義することは簡単ではありません。しかし現場をよく知る社員たちが中心となり、本気で取り組むことで、営業から製造、さらには海外で働く社員まで、コベルコ建機で働く仲間としてのチームワークを高められると考えました。そして私自身の経験を照らし合わせて、それは会社としての求心力を向上させることに必ずつながると確信したのです」

こうしてスタートしたのが「ブランディング推進プロジェクト」だ。社内での多様な部署からメンバーを集め、新たなフィロソフィーづくりへと動き出すことになる。

「これまでの新車販売に偏重したビジネスモデルから、アフターサービス、部品販売、ソリューション提案といった分野にも意識を広げていく必要があります。現在、こうした変革の真った



コベルコ建機 代表取締役社長
山本 明

1987年大阪大学大学院工学研究科金属材料工学専攻修士課程修了。同年4月、株式会社神戸製鋼所に入社し、溶接事業部門企画管理部長兼溶接事業部門企画管理部システム室長などを歴任。2015年4月、同執行役員、17年4月、同常務執行役員、20年4月、同専務執行役員を経て、22年6月、コベルコ建機株式会社 代表取締役社長に就任

だなかにあるという観点からも、新たなフィロソフィーを定義するには最適なタイミングだと思いました」

社員の意見に加え、お客様の声を聞き精度を高める

ブランディング推進プロジェクトでは、各現場の部門ごとにワークショップを実施し、海外を含む多様なスタッフの意見を集約。それらを新たなフィロソフィー構築に反映する取り組みが進められた。

「私自身は神戸製鋼所出身ですから、誤解を恐れずに言えば、コベルコ建機がこれまでに培ってきた哲学を深く理解しているわけではありません。お客様のニーズや建設機械業界の現状を最

ユーザー現場主義 | Identity

コベルコ建機がずっと大切にしてきた想い

「KOBELCOの建設機械を使って建設等の作業をしているお客様の現場を、いつも心に思い浮かべて仕事をする事で、お客様からより満足してもらえるように、いうなれば、相手の置かれている状況に自分自身を立たせて見て、今の相手の気持ちを推し量る」という考え方。私たちが常に持つ精神です。

企業理念 | Purpose

何のためにコベルコ建機はあるの？

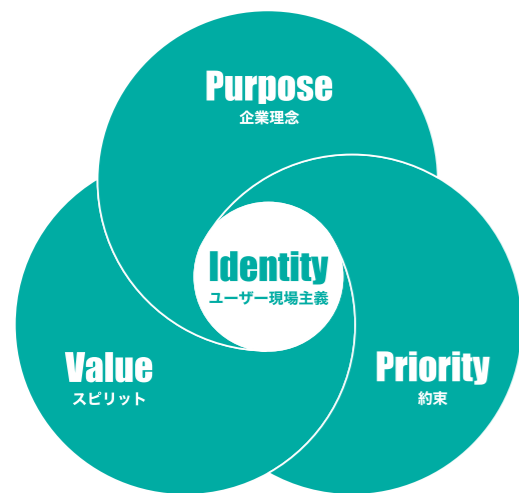
も的確に把握しているのは現場のスタッフです。そのため、新たなフィロソフィーを構築するには、現場のスタッフの意見を取り入れるのが適切だと考えました。彼らが自ら考える過程を得ることは、フィロソフィーを組織に定着させる上でも効果的だと思います」と山本社長は語る。

とはいえ、プロジェクトの進捗報告を受ければ、メンバーが能動的に動くことを前提に、アドバイスを送ることも忘れない。例えば、社内の「インナーボイス」だけでなく、社外の「アウターボイス」を取り入れることで、フィロソフィーの精度を高める必要性を提案したという。

「単にものづくりが好きだからではなく、お客様に愛される製品をつくるのが重要です。それが他社との差別化につながります。お客様の声をしっかり聞くことは、新たなフィロソフィーをつくる上で欠かせない要素ではないかということはいえませんでした」

お客様の声を聞くといえば、コベル

■フィロソフィー概念図



コベルコ建機グループは、ユーザー現場主義に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することでお客様の満足に応えるとともに、豊かな社会の建設に貢献する。

コ建機では創立以来「ユーザー現場主義」という理念が受け継がれてきた。しかし近年、社員の間でその解釈にバラつきが生じており、なかには「製品をただ安く提供すること」をユーザー現場主義ととらえる人もいます。もちろんプロジェクトメンバーもこの課題は認識していたが、山本社長は改めてユーザー現場主義の定義を整理するよう求めたという。

「お客様の現場の声を聞き、学び、そこから私たちが新たな付加価値を生み出し、ともに課題解決に挑んでいくことが、本来のユーザー現場主義だと私は考えています。社員全員がユーザー現場主義に対する共通理解をもてるようにすることも、今回のブランディング推進プロジェクトにおける重要なミッションの一つでした」

新たなフィロソフィーをいかに浸透させていくか

2023年から1年以上にわたり取り組まれてきたブランディング推進プロジェクト。その成果は、2024年12月4日に開催された25周年記念式典で披露された。新たなフィロソフィーとしては、コベルコ建機の想いを簡潔に表現するコーポレートブランドメッセージ「あなたとつくる、つなぐ、未来へ」が打ち出された。また、創立以来大切にされてきた「ユーザー現場主義」の定義も再整理され、より明確で

分かりやすい形に表現されている。「あなたとつくる、つなぐ、未来へ」における「あなた」は、社員を含むインナーだけでなく、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーを指しています。このように幅広く多層的な意味をもつメッセージにとっても満足しています」

今後は、新たに策定されたフィロソフィーを単なる言葉にとどめず、組織全体に浸透させ、日々の行動や意思決定に反映させていくことが、次なる重要なステップとなる。この取り組みは、企業文化を再構築し、社員一人ひとりが共通認識をもちながら事業の方向性を共有するための鍵となるはずだ。

「25周年記念式典にはさまざまな部門のスタッフを招待しました。彼らがそれぞれの部門で新しいフィロソフィーを広めるアンバサダーとしての役割を果たしてくれることを期待しています。私自身も今後、さまざまな場所で社員向けにとどまらず、マスコミの取材などでも新しいフィロソフィーについて話をしていきたいと思っています」

今回発表されたフィロソフィーは、けっして完成形ではない。時代の変化に応じて進化を続けていくのは当然のことだろう。しかし、新たなフィロソフィーの根幹を成す「お客様の声に耳を傾ける」という姿勢だけは、これからは変わらない。それこそが、コベルコ建機が未来へ向けて成長し続けるための揺るぎない指針となるはずだ。

お客様とともに課題解決に挑み続けるコベルコ建機に、今後とも期待していただきたい。

Part2 TEAM SESSION

お客様に寄り添う気持ちと私たちの強みを再確認・再定義しました



企画管理部 コーポレート コミュニケーショングループ マネージャー	マーケティング事業本部 クリーン営業本部 営業管理部 ビジネスインサイトグループ マネージャー	企画管理部 コーポレート コミュニケーショングループ マネージャー	生産本部 生産企画部 広島企画グループ	マーケティング事業本部 ショベル営業本部 海外部 環境営業グループ アシスタントマネージャー	総務人事部 人事グループ マネージャー
大山心平	郷之丸亮弘	堀内 翼	山元美佳	森地脩介	田中 祥

新たなフィロソフィーを策定するために発足した「ブランディング推進プロジェクト」。この構想自体は、数年前から営業促進部や広報のメンバーによって温められてきたアイデアだが、満を持して2023年にゴーサインが出されて動きだした。そして2024年末に新たなフィロソフィーが発表された。今回、プロジェクトに関わったメンバーが一堂に会し、それぞれの役割を振り返るとともに、再確認したコベルコ建機の価値やお客様との関係性について語り合った。

幅広い部署のスタッフが集合

——まずはお1人ずつ、簡単な自己紹介からお願いします。入社年と所属、現在の仕事内容、このブランディング推進プロジェクトにおける役割をお話しいただけますか。

堀内：2014年にキャリア採用で入社しました。企画管理部コーポレートコミュニケーショングループに所属し、広報業務を担当しています。当プロジェクトではリーダーとしてメンバーの皆さんから支えをいただきなが

らここまで進めてきました。メンバーは本日集まった6名以外にもたくさんおりますし、またこのプロジェクト自体がメンバーだけでなく、コベルコ建機グループ全体でも取り組んできたものです。新たに策定したフィロソフィーもグループ全体で構築したものと考えています。

大山：私は2006年入社です。堀内リーダーと同じく企画管理部コーポレートコミュニケーショングループに所属し、広報関連の業務に従事しています。プロジェクトでは、堀内リーダーを陰

ながら支える“影武者”としての役割を担いました(笑)。

山元：2017年に派遣社員として入社



“仕事に面白さや楽しさを
感じられないのはもったいない”

し、その後20年にキャリア採用により正社員になりました。広島工場の生産本部生産企画部に所属し、海外現地法人からの来日研修生受け入れや、各種会議の調整・資料作成など事務業務を担当しています。プロジェクトでは、入社以降多くの方と関わるなかで感じてきた「ものづくり」への熱意や仕事へのこだわりなど、生産本部の立場から意見をお伝えさせていただきました。**郷之丸**：2006年に入社しました。クレーン営業本部営業管理部のビジネスインサイトグループに所属しています。本部署には24年4月に異動してきたばかりで、それ以前の18年間はクレーンのサービス業務に従事していました。そうしたサービスマンとしての経験を生かし、フィロソフィーに反映できる現場のマインドや視点を提案したいとの想いで参加しました。勤務先が兵庫県明石市の大久保工場のため、プロジェクトでは大久保工場側の統括役を務めています。

森地：私は2012年入社です。ショベル営業本部海外部の環境営業グループに所属し、自動車解体機や建物解体機などの環境リサイクル機に関する海



“「社員全員で一緒に考えたい」という姿勢を徹底的に”

外向けマーケティングや商品企画を担当しています。本プロジェクトには多様な部署からメンバーが選出されていますが、私はショベルの営業部門を代表する立場として参加。フィロソフィーづくりでは、コベルコ建機の製品がもつ強みを営業部門の視点から提案・共有させていただきました。

田中：私は2005年に入社しました。これまで約15年間にわたり、採用、社内教育、評価制度の運用など、人事関連業務全般に従事してきました。幅広い業務を通じて、人材育成や組織開発などに取り組んできた経歴です。今回のプロジェクトでは、人事の立場から意見を述べさせていただいたほか、プロジェクトに必要な社員情報や組織データの収集・整理など、支援業務にも携わらせていただきました。

ボトムアップによるプロジェクト

——今回のプロジェクトを通じて感じたことや想い、学んだことを教えてください。

堀内：企業理念の意義について、私は

広報部門に来るまでは正直、そこまで意識していませんでした。「大事なのは分かるけれど、それほど重要視しなくてもいいのでは」と考えていたのです。しかし、実際に広報業務を始めると、その考えが変わりました。

特に、社員のエンゲージメントが低いと感じることや、コベルコ建機として外部に発信する際のイメージが統一されていないという課題に直面しました。そのなかで取り組み始めた「ブランディング推進プロジェクト」の重要性を強く実感。このプロジェクトを進めることで、フィロソフィー、企業理念の価値を社内外に浸透させる意義を感じていきました。

大山：自社の理念などは、特に経営層



“理念は単なるスローガンではなく全社員の共有財産”

から遠くなればなるほど「自分とは関係が薄い」と感じがちですが、私自身、この1年でその認識が大きく変わりました。同世代の社員たちとプロジェクト活動を進めるなかで、「これを大切にしていこう」という共通の想いが生まれ、一つのチームとして理念を軸にまとまる意識が育まれたからです。

創立25周年を機に、企業理念体系を再定義するために、なるべく多くの社員の意見を反映させながら議論を重ね、具体的な言葉に落とし込む取り組みを行いました。このボトムアップのプロセスによって、理念は単

なるスローガンではなく、全社員の共有財産へ昇華したと実感しています。**郷之丸**：人は人生のなかで多くの時間を仕事に費やします。その仕事に面白さや楽しさを感じられないのは、非常にもったいないことだと感じます。だからこそ、社員が仕事に対してモチベーションをもてるような環境をつくり、その意識をさらに広げていくことが重要です。そうしたことをブランディングにより実現できれば素晴らしいのではないかと、本プロジェクトを通じて強く実感しました。



“フィロソフィーは、働きやすさを向上させる一助になる”

森地：本社から発信するブランディング活動を、最前線でお客様と向き合う営業や工場スタッフなどへ浸透、定着させていくためには、アンケートの意図を丁寧に説明し、現場や管理職に繰り返しプレゼンテーションを行うなど、一方的な施策に見えない工夫が必要でした。「社員全員で一緒に考えたい」という姿勢を徹底的に伝えた結果、活動への理解が進み、協力的な仲間が増えたことは、このプロジェクトにおける大きな成果だったと感じています。

アンケートやワークショップを全社的に実施

——本プロジェクトでは、全社的なアンケートや部門ごとのワークショップなども実施されたと聞い

ています。印象に残っているのはどんなことでしょうか。

山元：製造部門でのワークショップに参加した際、「コベルコ建機らしさ」を考える内容のなかで「お客様」や「寄り添う」などユーザー現場主

義を体現したキーワードが多く集まったことが印象的でした。製造現場において、日々、安全かつ正確に作業を進めることが求められているなかで、自社の理念について考える機会は多くありません。私自身、このプロジェクトに参加するまでは「フィロソフィーとは?」「企業理念、一つも知りません」という状態でした。そのなかで、自社の根っこと言

うべき「ユーザー現場主義」を表すキーワードが「コベルコ建機らしさ」として挙がったのは、自然と私たちのなかに存在する、大切な言葉であるということを確認した経験でした。今回のプロジェクトで生まれたフィロソフィーは、各地で開催されたワークショップや全社アンケートなど、社員一人ひとりの声から形成されたものです。このフィロソフィーは「自分たちのものだ」と感じてもらうことが、今後の私たちの役割だと考えています。



“「ユーザー現場主義」の意味を再認識するきっかけに”

“言葉は新しくなりましたが、想いはこれまでと変わりません”



田中：ワークショップでは、この会社の良いところとして働きやすさを挙げる意見が多く出ました。例えば、「意見が言いやすい」「職場の雰囲気が良い」「福利厚生が充実している」といったことなのですが、これらはまさに当社の人事が重要視して取り組んできたポイントであり、その成果が社員から評価されていると感じられて非常にうれしかったです。また、全社的に一つのテーマでワークショップを行い、部門ごとにディスカッションをしたというのは、今回が初めてではないかと思っています。実施の話聞いたとき、正直「本当にできるのだろうか」と半信半疑だったのですが、堀内リーダーの強い想いが皆を動かし、見事に実現したことには驚きと感動を覚えました。

郷之丸：2人は社員の視点からの話でしたが、私が特に気になっていたのは、幹部の方々が会社に対してどのように考えているのかという点でした。なぜかという、アンケートやワークショップで得られた社員の意見を見聞きするなかで、「幹部の意識と一致しているのだろうか、それとも違うのだろうか」という疑問を抱いていたからです。そこで、幹部の人たちにインタビューした内容を一つひとつ丁寧に読み込んでみると、意外にも社員がワークショップで語っていた内容と共通点が多く、濃淡は

あなたとつくる、 つなぐ、未来へ

コベルコ建機

あたらしい技術、培ってきた技術、たくさんあるけれど、いちばん大切なのは、あなたを想う技術だ。何度も考えて、お客様の声にとことん応えること、たえず技術を磨いて、現場が働きやすい最先端を切り拓くこと、さまざまな壁を乗り越えて、社会や地球にやさしいカタチにつなぐこと。機械をあえてブルーグリーンにするのも、街に溶けこむ色にしたいから。すべての“あなた”を想い、その思いの先まで考える。そんな「ちょっとおせっかい」が、きっとコベルコ建機らしい未来の目指し方。さあ今日もあなたと。

あるものの基本的に同じ方向性をもっていると感じました。幹部と社員が同じベクトルで考えているという事実が驚くとともに、会社全体の方向性が一致していることを再確認する良い機会となりました。

「あなたとつくる、つなぐ、未来へ」に込めた想い

——社員一人ひとりの想いが結実したフィロソフィーが25周年記念式典で発表されました。この新たな指針が、コ

ベルコ建機の未来にどんな価値や可能性をもたらしてくれるとお考えですか。
森地：私は入社13年目になりますが、前の部署にいたときの後輩たちの多くが会社を離れてしまいました。長い間一緒に働き、仲良くしていた後輩たちが去っていくのは、単純に寂しいと感じています。コベルコ建機の良いところは、よく言われることですが、社員同士の「おせっかい」や「面倒見の良さ」、そして本当に困ったときには必ず助けてくれるような温かい関係性だ

と私は思っています。しかし、アンケートなどを見ていると、今はそれに対して違う意見をもっている人もいることが分かりました。そこで、このプロジェクト活動やフィロソフィーを通じて、特に若い社員たちにコベルコ建機の良さを改めて理解してもらい、共感してもらえることを期待しています。
田中：先ほど、ワークショップで「コベルコ建機の良いところ」として「働きやすさ」を挙げる意見が多く聞かれたことに、人事としてとてもうれしく感



じたとお話ししました。しかし、その一方で、退職される方も一定数いるという現実があり、まだコベルコ建機の良さを十分に感じられていない方もいるのだと改めて気づかされました。こうした状況を踏まえ、従業員一人ひとりの声にしっかり耳を傾けることの大切さを再認識し、人事としてさらに気を引き締めて取り組んでいかなければと感じています。また、今回新たにつくり上げたフィロソフィーが、コベルコ建機での働きやすさをさらに向上させる一助となることを願っています。
山元：「ユーザー現場主義」という言葉について、ある方から「その定義が曖昧ではないか」と指摘を受けたことがあります。私もたしかにそうだなと思ったのですが、堀内リーダーが過去の資料を探し出してくれたおかげで、実は「ユーザー現場主義」には明確な定義が以前から存在していたことが分かりました。その定義は、お客様と直接関わる部署だけでなく、すべての部署の社員にも当てはまります。お客様に直接接する場合は、お客様の立場を想像して行動し、それ以外の部署では相手の立場に想いを寄せ、どんな状況かを考えながら寄り添う仕事をするというものです。この定義をフィロソフィーのなかにしっかりと組み込んだことで、

社員一人ひとりが「ユーザー現場主義」の意味を再認識するきっかけとなるはずですが、それが、お客様そして会社の仲間たちとの新たな関係をつないでいくスタートになればと思っています。
大山：コーポレートブランドメッセージ「あなたとつくる、つなぐ、未来へ」に込めた「あなた」とは、社員だけでなくお客様やお客様のその先のお客様、ご家族、そして未来を担うすべての人々を指しています。私たちの建設機械は、それ自体ではなにも生み出せません。それを使い、街や未来を築いている人々とともに歩むことで初めて価値が生まれます。このフィロソフィーを胸に、多様なステークホルダーに寄り添いながら、建設業界の新たな未来

をつくっていかれたらと思っています。
堀内：言葉は新しくなりましたが、これまでの企業理念体系に込められていた想いは変わりません。「ユーザー現場主義」のもとで、お客様に寄り添い、築き上げ、つないできた歩みの延長線上に未来がある。これが私たちの大切な考え方です。これまでの積み重ねを基盤に、新たな挑戦を続けながら、コベルコ建機はお客様とともにより良い未来を目指して歩んでいきます。その変わらぬ想いと、新たな可能性への期待を込めた新しいフィロソフィーを社内外にしっかりと浸透させるために、これからも努力を続けてまいります。今後のコベルコ建機にどうぞご期待ください。

座談会に参加できなかったメンバーの声を聞きました！

コベルコ建機には、自社の製品に対する深い誇りをもつ社員が多いことを改めて実感しました。また、長年にわたりものづくりに従事してきた経験が、お客様視点を大切に製品開発につながっており、その試行錯誤の積み重ねが今日の強みとなっていると感じました。今後もコベルコ建機が、お客様に愛され、選ばれ続ける企業であるために、新しいフィロソフィーの下、社員一丸となって日々の業務に取り組んでいければと思っています。

内部統制・監査部コンプライアンス統括グループ 藤井理紗

スピリット | Value

ユーザー現場主義を実践するために、日々の業務の中で社員一人ひとりが意識する姿勢

SIMPLE

シンプルに、本質を突きつめる。
目指すべきゴール、超えるべき壁のために、何をすべきか。相手の立場に立って、すべての“あなた”のために、私たちは、シンプルに考え、本質を突きつめます。

SPEED

スピードは、動かす力。
スピード、それは人を、心を動かす力。素早い動きが、社会を動かす力につながっている。相手の立場に立って、すべての“あなた”のために、私たちは、常にスピードをもって行動します。

OPEN

オープンな、独創力の入口。
個々を尊重するオープンな空気が、自由闊達な会話を生み、ユニークな発想を連れてくる。相手の立場に立って、すべての“あなた”のために、私たちは、常にオープンな姿勢を心がけます。

CHALLENGE

チャレンジが、変化を生む。
困難な課題に挑み、やり遂げた先にたどり着くのは、私たちにしかつくりだせない価値。相手の立場に立って、すべての“あなた”のために、私たちは、常にチャレンジし続けます。



宗像大社は、全国に約6200社ある宗像三女神を祀る神社の総本社。北部九州から朝鮮半島を結ぶ海域に位置する三つの宮からなる。九州本土の辺津宮から約60km沖合の沖ノ島には沖津宮、約11km沖合の大島には中津宮が鎮座する

File.70 歴史的建造物誕生の秘密を探る！

宗像大社 [福岡県]

玄界灘に息づく宗像三女神信仰

日本神話にも登場する宗像大社は、日本最古の神社の一つ。この地に残る古代信仰の形態が今日まで継承されてきた。その歴史的・文化的価値が評価され、宗像大社は2017年に8つの構成資産からなる「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」として世界遺産に登録された。古代信仰はどのようにして千年以上の時を超え、守り継がれてきたのか。宗像大社に秘められた壮大な歴史の謎に迫る。

砂山幹博 = 取材・文 田中勝明 = 撮影
text by Mikihiro Sunayama / photographs by Katsuaki Tanaka

宗像三女神と三つの宮

日本の始まりを伝える最古の正史『日本書紀』によれば、日本神話の最高神である天照大神は、「大陸との交通の要所である玄界灘に降り立ち、天孫である皇室を助けよ」と娘である三女神に神勅(命令)を授けたとされる。三女神はそれぞれ、沖ノ島の沖津宮に田心姫神、大島の中津宮に湍津姫神、九州本土の辺津宮に市杵島姫神として降臨し、この三宮を総称して宗像大社と呼んだ。

偶然か必然か、玄界灘に面した約60kmの範囲に点在する三宮は、朝鮮半島に向かってほぼ一直線に並ぶ。そのため、沖ノ島や大島は古くから航路の中継点として利用され、宗像大社は海上交通の神として信仰されるように

なった。

4世紀後半(古墳時代)に、朝廷と朝鮮半島の百濟との本格的な交流が始まると、沖ノ島で航海の安全と交流の成功を祈願する国家祭祀が行われていたようだ。国家祭祀とは、天皇の使者である勅使が現地へ赴き、執り行うもの。『日本書紀』などから、天皇の勅使が大和国(奈良県)から宗像に派遣されたことが分かっており、祭祀は大規模だったと推測される。

このことを裏付ける証拠が、1954年に宗像大社の由緒を解明するために行われた学術調査で発見された。沖津宮の社殿北側にある巨岩群で、23カ所にわたる大規模な古代祭祀の跡が確認されたのである。さらに、岩の上や岩陰からは、4世紀から9世紀にかけて奉獻されたとされる膨大な数の宝物が見

つかった。

土器類、鉄剣や勾玉などの祭具、純金製や金銅製の装飾品、国外からもたらされた工芸品など、多岐にわたる8万点以上の宝物はすべて国宝に指定され、その内容と規模の壮大さから、沖ノ島は「海の正倉院」と称される。

宝物には、権力の象徴とされる銅鏡が70枚以上含まれていた。宗像大社を取り仕切っていたのは北部九州の豪族宗像(胸形とも)氏だが、発見された銅鏡の数は地方の一豪族が所有できる規模をはるかに超えていた。前述したように、勅使が宗像を訪れたという記録と合わせ、国家祭祀が沖ノ島で行われていたことが明らかとなった。

海の交易を支えた宗像氏

宗像大社は九州で唯一「神郡」に選

ばれた神社である。神郡とは、大化の改新を機に特別な役割をもつ神社を支えるために設けられた制度で、現在の特別行政区に相当する。一郡全体が神社の所領として認められ、その郡から徴収される租税を祭祀の費用などに充てることが許された。

なぜ朝廷は宗像大社をこれほどまでに優遇したのか。「朝廷が宗像大社を優遇し、連携を図ろうとしたのは、宗像氏が海外交易に不可欠な高度な航海術をもっていたからだといわれています」(宗像大社権禰宜の鈴木祥裕さん)

宗像氏は古来、海の領主として海外交易を担う一族だった。玄界灘は、現在の漁師でも年間約100日しか操業できないほどの荒海だが、宗像氏はその険しい海域を把握し、卓越した航海術で船を操ることに長けていた。大陸と



辺津宮の本殿は五間社流造で、薄い木板を幾重にも重ねた柿葺(こけらぶき)の屋根が特徴



1.社殿が建立される以前の祭祀形態を今に伝える高宮祭場。現在も定期的に祭事が執り行われている 2.三宮の本殿には、宗像三女神が天照大神から受けた神勅の一節「奉助天孫而為天孫所祭(天孫を助け奉り、天孫に祭られよ)」の扁額が掲げられている(写真は辺津宮)



1.中津宮が鎮座する大島は人口約600人の福岡県で最も大きな島。「神宿る島」沖ノ島に対して大島は「神守る島」とも呼ばれ、今も人々の暮らしのなかに祭祀が受け継がれている 2.宗像三女神のうち湍津姫神が祀られる中津宮



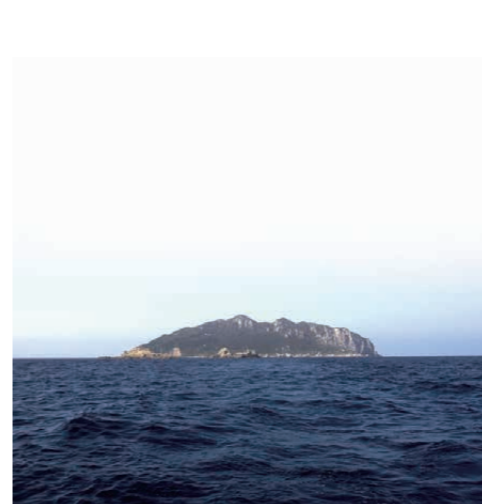
大島の北側にある沖津宮遙拝所(ようはいじょ)は、江戸時代に設けられた、49km離れた沖ノ島を遠くから拝むための「遥拝」の場。沖ノ島を本殿と見立て、拝殿の役割を果たす。空気の澄んだ日には水平線上に沖ノ島を望むことができる

歴史的
建造物誕生の
秘密を探る!

File.70



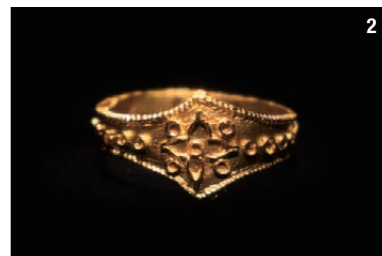
辺津宮は宗像三女神信仰の中心地。建物中央の拝殿は1590年に九州に転封された戦国武将の小早川隆景によって再建された



玄界灘のほぼ真ん中に位置する沖ノ島。住人はなく、島そのものがご神体とされ、今もお厳格な禁忌によって守られている



1.沖ノ島にある社殿は宗像大社の沖津宮で、宗像三女神のうち田心姫神が祀られている。社殿は江戸時代に建てられたもの 2.荘厳な輝きを放つ純金製の「金製指輪」(左)と、古代の織機をミニチュアで忠実に再現した「金銅製高機」(右)。沖ノ島から出土した4~9世紀の宝物は一括して国宝に指定された



の交易や国防の面でも、宗像氏の航海術は朝廷にとって欠かせないものであった。

後に、宗像一族の胸形君徳善の娘、尼子娘が天武天皇の後となり、宗像氏と皇室との関係は一層強固なものとなった。

沖ノ島での国家祭祀は、平安時代に遣唐使が廃止されるとともに幕を閉じたが、宗像大社は宗像氏の主導のもと国家鎮護の役割を担い続けた。

国家祭祀が途絶えても、沖ノ島は「神宿る島」として島全体が信仰の対象であった。信仰が深まるにつれ、女人禁

制、上陸時の禊、見聞の口外禁止、島内の一木一草一石たりとも持ち出してはならないといった禁忌も生まれた。

古代祭祀の遺跡や奉獻品が手つかずのまま島に残ったのは、地域の人々の間に根づいた禁忌意識が守られ続けたことも一因であろう。

現在、一般の立ち入りは禁止され、神職以外は渡島できない。約10日交代で神職一名が常駐し、毎朝海に入り禊を済ませたあとに祭祀を行っている。

出光佐三と世界遺産登録

沖ノ島と同様に、中津宮と辺津宮か

らも宝物が出土していることから、7世紀後半(飛鳥時代)には三宮共通の祭祀が行われていたと考えられている。

辺津宮には、沖ノ島の古代祭祀遺跡を彷彿とさせる高宮祭場がある。辺津宮の市杵島姫神の降臨地とされ、社殿建立以前から祭祀が行われた場所だ。巨木の周囲に玉垣をめぐらせ、注連縄で神域を示した古代信仰の形態を今に伝えている。

辺津宮の社殿は鎌倉時代までに建立され、戦乱で幾度も失われたが、1578年に大宮司の宗像氏貞が再建したのが現在の本殿だ。正面に6本の柱、前方

の屋根が後ろの屋根より長い五間社流造の建物で、安土桃山時代初期の様式を色濃く残す。

中津宮の本殿は1566年の建立とされ、県の有形文化財に指定されている。大島最高峰の御嶽山頂付近に、沖ノ島と共通する古代祭祀の跡を見ることができる。三宮に古代祭祀跡が存在する事実は、『日本書紀』の「宗像氏が宗像三女神を沖津宮、中津宮、辺津宮で祀る」という記述と合致する。

宗像大社の実態を今私たちが知ることができるのは、出光興産創業者で宗像出身の出光佐三の尽力によるところ

が大きい。1954年からの沖ノ島学術調査も、佐三なくしては実現しなかった。

宗像大社を厚く信仰していた佐三は、1937年に参拝した際、荒廃した社の状況に心を痛み、1942年に宗像神社復興期成会を結成し初代会長に就任。約30年間、私財数十億円を投じて再建に尽力した。

最初に手がけたのが『宗像神社史』の編纂で、その一環として行われたのが件の沖ノ島での学術調査だ。1954年から1971年にかけて3次にわたる沖ノ島学術調査を実施し、これにより沖

ノ島の考古学的価値が明らかになった。『日本書紀』や『古事記』の記述を実地調査で裏付けた結果、宗像大社三宮の起源や三女神信仰の実態が明らかとなり、世界遺産登録への道が開かれた。

天照大神の神勅により、三つの宮に分かれた三女神だが、10月初旬の「みあれ祭」で顔を揃える。沖津宮と中津宮から御霊を船で運び、辺津宮で三女神が一堂に会するのだ。

玄界灘を守り、古代の航海を助けてきた宗像三女神は現代でもこの地に深く根づいている。



経営のヒント

プロモーション編

大阪府大阪市
工建産業株式会社

大型機械を広告塔に 事業規模の拡大を実現

大阪・尼崎・西宮を拠点に、近畿一円で建築現場の杭打ちや障害物撤去を手がける工建産業株式会社。同社は、大型機械の積極的な導入により、難易度の高い大口径・長尺の杭打ち作業を次々と成功させている。これら大型機械による実績が自社のプロモーション効果を生み、さらなる事業拡大へとつながっている。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

大型機械の導入を足掛かりに 全国規模で顧客を獲得

1978年に設立された工建産業株式会社は、2024年に創業46周年を迎えた基礎工事の専門企業だ。

「基礎工事のなかでも杭打ちは、地中の作業が中心となり目に見えないため、難易度が高くなります。また、杭が長くなるほど失敗するリスクが高まるため、特に大口径かつ長尺の杭打ちを避ける業者も少なくありません。しかし、当社はこうした困難な現場を

得意としています」と語るのは、代表取締役の角谷真路さん。

長年にわたって技術と経験を蓄積してきた工建産業では、角谷さんが創業メンバーである父親から2代目社長としてバトンを引き継いだ頃から、最新の大型機械への投資を積極的に進めてきた。例えば、直近では国内稼働数4台、西日本に限れば稼働数わずか1台（※本取材時）のリーダ長約50mを誇る大型杭打ち機「DH858-200M-8T（日本車輛製造株式会社）」と、それに対応する相番機として200tクラスの

コベルコ建機製大型クローラクレーン、7200G-2Aを導入。こうした最先端の機械設備により、現在では杭径1200～1300mm、杭長70～80mに及ぶ大口径&長尺の杭打ち作業を、安全かつ確実に遂行可能な能力を有するまでになっている。

さらに、これらの大型機械の導入は、施工能力の向上にとどまらず、企業のプロモーションにも絶大の効果をもたらした。角谷さんによれば、大型機械を所有していること自体が他社との差別化につながり、近畿一円だけで



物流倉庫の建築現場にて、杭打ち機の相番機として活躍する7200G-2A。その奥には、7120Gの姿も見える

“大型機械のプロモーション効果は絶大！各地から声がかかるようになりました。”
代表取締役
角谷真路さん



今回の訪問先は
工建産業株式会社
所在地 / 大阪府大阪市西区西本町2丁目
2番2号なにわ筋中央ビル5階
☎06-6543-1371
<https://www.koken-industry.co.jp>

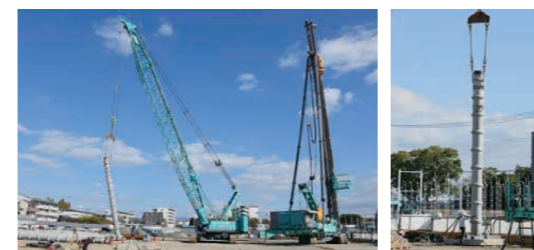


工建産業が所有するクローラクレーンは、すべてがコベルコ建機製。人の動作と直感的にリンクして操作しやすいという点は、同社の多くのオペレータが共通して評価しているポイントだ

なく各地から多くの依頼が寄せられるようになったという。九州の半導体工場の基礎工事では、大型機械の能力を遺憾なく発揮し、その施工スピードの速さに同業他社は驚きの声を上げたという。

こうした実績を積み重ねた結果、角谷さんが社長に就任した2007年当時と比較して、事業規模はおおよそ3倍にまで拡大している。

なお、前述の大型杭打ち機とコベルコ建機製クレーンの2台は、大規模建築プロジェクトで投入が検討されてい



ブームを旋回させ、つり下げた杭を掘削孔へと正確に移動させる7120G。そのスムーズで精密な旋回性能は、コベルコ建機のクローラクレーンならではの特長であり、杭打ち作業の相番機としても最適

る。この事実は、大型機械の積極的な導入が工建産業の成長を力強く支えていることを如実に示しているといえるだろう。

最新の大型クレーンの 導入でさらなる成長へ

工建産業における広告塔として、同社の成長に重要な役割を果たしている大型クローラクレーン、コベルコ建機の7200G-2Aは、取材当日に物流倉庫の建築現場で杭打ち作業の相番機として稼働していた。この現場では、杭径600～1000mm、杭長24～25mの杭を合計100本、2カ月間の工期で打ち込む計画が進行中である。

7200G-2Aのオペレータである水田直孝さんは、工建産業への入社後、オペレータ以外の仕事を経てクレーン操作の資格を取得。70tクラスの機種から搭乗し始め、キャリア6年の現在では120t以上の大型クレーンを自在に操る腕前をもつ。今回、200tクラスのコベルコ製クレーンを初めて操作した水田さんに、その印象を伺ったところ、大型機ならではのスケールメリットを高く評価していた。

「120tクラスと比較してもブームが10m以上長く、本体を移動させずに杭をつり下げて所定の位

7200G-2Aに搭乗するオペレータの水田直孝さん。「当社はクレーンの数が多く、いろいろなクラスに乗りこなせるチャンスがあります。大型クレーンにも比較的早くから搭乗できるので、技術を磨くにはもってこいの環境です」



置まで運べるため、作業の手間や時間、労力を大幅に削減でき、業務効率が格段に向上しました。また、200tクラスのつり上げ能力は十分以上な上、旋回時にブームのウエイトが重いために多少流れることがあっても、機体が非常に安定しているので安心して作業できます」

さらに、水田さんが特に気に入っていたのは、指のみで操作できる旋回レバーだ。手首を使わずにアクセルをコントロールできるため、操作が格段に楽になったと絶賛していた。

工建産業では、この7200G-2Aに続く新たな大型クローラクレーンとして、進化型モデル「マスターテック7200G NEO」の導入を予定している。この最新機種は、つり上げ能力を向上させただけでなく、輸送や組立性も大幅に改良されている。工建産業に納品されれば、その情報は瞬く間に業界内へと広がり、同社の次なる広告塔として注目を集めることだろう。マスターテック7200G NEOがどのような貢献をもたらすのか、期待は高まるばかりだ。



【コベルコの風】

日本全国、そして世界各国でのコベルコの活動をレポート!



Wind 1 from
千葉
Chiba

「コベルコ建機日本 秋の大展示会2024」を開催しました

2024年11月9日(土)～10日(日)の2日間、「コベルコ建機日本 秋の大展示会2024 ～碧く染める! 時代に挑むSPIRIT!～」を開催しました。

今回の展示会は、「新機種および新技術の早期浸透」「ICT への取り組みの訴求」「伝統の継続と謝恩感謝祭」の3つをテーマに、工夫を凝らした商品展示やデモンストレーションを行いました。実機は「SK26SR」「SK28SR」および「SK160BR」といった新機種をはじめ、20台を超えるラインナップを展示。重機の遠隔操作システム

「K-DIVE®」のcockピットをトラックに常設した「Mobile DIVE Spot」も出展し、多くの方に重機の遠隔操作をご体感いただきました。また、ICT コーナーではホルナビの取り組みをご理解いただけるよう、チルトロータータマシンヒッチや杭ナビショベルを展示し、機械の操作を実際に体験できるスペースを設けました。

来場者は開催2日間で3,000人を超えるほどの大盛況で、コベルコ建機の最新ソリューションをPRできた良い機会となりました。



1.会場には最新のICT建機からクレーンまで展示 2.「K-DIVE®」を乗せた「Mobile DIVE Spot」

Wind 3 from
コベルコ建機
Kobelco

メルマガ登録
プレゼントキャンペーン実施中!

コベルコ建機の最新トピックスはもちろん、建設業界のお役立ち情報やこれからのDXソリューションについてなど、お悩み解決のヒントが詰まったメルマガジンの「メルマガ登録プレゼントキャンペーン」を実施中! 2025年2月28日(金)までにメルマガジン(無料)に登録してキャンペーンに応募いただいた方の中から、抽選で10名様に「SK30SR-7」のミニチュアをプレゼントします。詳しい応募情報や注意事項は、下記二次元コードよりご確認ください。皆様のご応募、お待ちしております!



応募詳細はこちら



Wind 4 from
東京
Tokyo

「第37回 しながわ夢さん橋2024」に参加しました

東京本社が所在する品川区大崎地区で開催される地域交流イベント「第37回 しながわ夢さん橋2024」に参加しました。このイベントは「ひと・まち・企業が奏でるシンフォニー」をスローガンに、ステージイベントや地元飲食店の出店などが行われており、「地域交流・地域貢献」および「当社グループの取り組みを伝え、より多くの方々にコベルコ建機を知っていただくこと」を目的に、2006年から参加しています。当日はミニショベルの乗車体験やグッズ販売を行い、今回もたくさんのお子様に笑顔で楽しんでいただくことができました。



合計で260組のご家族にご来場いただきました!

Wind 2 from
福井
Fukui

「2024 森林・林業・環境機械展示実演会」に出展しました

2024年10月20日(日)～21日(月)に開催された「2024 森林・林業・環境機械展示実演会」にコベルコ建機日本が出展しました。

14回目の参加となる今回の出展では、重機の遠隔操作を試せるトラック「Mobile DIVE Spot」の初お披露目を実施。「K-DIVE®」を多くのお客様にご試乗いただき、コベルコ建機のDXへの取り組みを十分にPRすることができました。また、「K-FOREST」としてブランド展開をしている7型の林業専用機全機種を出展。展示機を動かしてのデモンストレーションも行い、コベルコ建機が誇る林業専用機のパワーや耐久性をアピールしました。

ご家族連れでも遊べるイベントにも多くの方がご参加いただき、開催2日間でコベルコブースには約2,800名の方々に越えただくほどの大盛況となりました。



1.林業専用機のデモンストレーション 2.「K-DIVE®」での遠隔操作の様子

Wind 5 from
岐阜
Gifu

「Out of KidZania in おおがき」に参加しました



2024年11月16日(土)～17日(日)、岐阜県大垣市の大垣城ホールをメイン会場に、子ども向け職業・社会体験施設「キッズニア」を飛び出して、子どもたちにもっとリアルな体験をしてもらいたいという想いから誕生したプログラム「Out of KidZania in おおがき」が開催されました。コベルコ建機ブースでは、子どもたち用に準備した作業着やヘルメットなどを身につけてもらい、AR技術を用いた溶接作業やボンネットへのラベル貼り、「K-DIVE®」シミュレータを用いた機械検査を体験してもらいました。参加した子どもたちからは、「溶接はとても集中力のいる作業だということが分かった」「簡単そうに見えたラベル貼りがとても難しかった」「「K-DIVE®」の操作性がとてもリアルで面白かった」といった声が聞かれ、屋外に設置したショベル試乗コーナーも含め、参加者に楽しんでいただくことができました。

Wind 6 from
コベルコ教習所
Kobelco

「コベルコ教習所eラーニング」サービス開始

コベルコ教習所では2025年1月より、オンラインで受講できるeラーニングのサービスを開始します。これまで「家の近くに教習所がない」「講習時間のタイミングが合わない」といった理由で受講が難しかった方にも、パソコンやスマホがあれば時間や場所を気にせずいつでも受講が可能になります。受講期間中は何度でも視聴できるため、気になる箇所はしっかりと理解できるまで見返すことができます。実施予定講習や必要環境については、下記二次元コードよりご参照ください。



詳細情報は
こちら



読者の広場

Fun! Fan! コベルコニュース

高知にぜひ来て下さい!

愛するわが高知の高知城を取り上げていただき、ありがとうございます。開いた瞬間、うれしくて胸が躍りました。年間を通じてさまざまなイベントも開催されますし、お堀前の県立高知城歴史博物館も美しいですよ。今春のNHKの連続テレビ小説「あんぱん」の舞台でもある高知、たくさんの方にお越しいただきたいと思っています。

高知県 匿名希望



山口県・光東(株)
土井秀紀さん

高知城の記事を見たら高知に行きたくなりました!

高知県は遠方なのでなかなか行く機会がありませんでしたが、高知城の記事を読んで、ぜひ行きたいと思いました。四万十川でカヌー漕ぎをして自然にどっぷりつかりたいですね。

富山県・米原商事(株)
波多野勝さん



岩手県・長沢産業(株)
南館圭さん

コベルコニュースへのご意見や、身のまわりで起こったあんなこと、こんなこと。さらに自慢のイラストやすてきな写真など、読者の皆様からのご投稿をご紹介します!

コベルコ建機の色が好き

コベルコのきれいなブルーが好きです! 建機界のティファニーみたい。製品はもちろん、このカラーを使ったグッズももっといっぱい出してほしいです。

三重県 匿名希望



香川県・森吉建設(有)
森芳明さん



鹿児島県 匿名希望

小規模事業者へ朗報

今回の新機SK26/28SR-7の発売で、小規模事業者への対応が良くなったと感じました。ニーズは多いと思います。

新潟県 匿名希望



千葉県
山崎奏空さん

活躍の機会を上げてくれそう

ショベルを遠隔操作できるのを初めて知り、感動しました。重機は男性が多く操作されているイメージですが、性別や年齢に関係なく活躍できるのではないのでしょうか。

兵庫県 匿名希望



山梨県 匿名希望



新潟県・(有) 佐藤設備
浅井一雄さん



宮城県・(株) 安部工業
安藤理沙さん

楽しいイラスト、すてきな写真大募集!

読者の広場は皆様からの投稿で構成しています。本誌への感想や、身近で起こったできごとなど、お気軽にお寄せください。また、同時にイラストやお写真も募集しています。採用された方には、すてきなプレゼントを進呈いたします。ぜひご投稿ください。メールでの投稿もお待ちしております。

※メールには、会社名、所在地、電話番号、氏名、匿名希望の方はその旨を必ずご記入ください
※ご投稿いただいた内容は、本誌以外にHP、SNSなどに掲載させていただきます。予めご了承ください
✉ Kobelconews-shm@kobelco.com

公式アカウントで投稿が紹介されるかも

#コベルコのある風景

#コベルコ建機 #コベルコ

Instagram

投稿募集中



PRESENT

クロスワードパズル正解者のなかから抽選で次の賞品を進呈いたします。ふるってご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代させていただきます

[プレゼント]

3名様

A賞

LK50Zミニチュア

建築・土木関連だけでなく、除雪、農畜産、造園など、さまざまな現場で活躍するミニホイールローダLK50Zの1/32ダイキャストモデル。全長約15cm、ワイパーなど細部までこだわっています。



B賞

NIPLUX FASCIALAX MINI

約500gの重さで、女性でも気軽に使用できるハンディ振動マシン。肩や腕、脚などをピンポイントで気持ち良くリラクセスできます。1分間に最大3200回のパワフル振動、振動スピードは4段階から選べます。



1名様

2名様

C賞

久留米紺甘織りストール (グラデーション うぐいす)

福岡県の久留米紺を100%使用した甘織りストール。「甘織り」とは、一般的な久留米紺に比べ、より一層の柔らかさを追求しガーゼのような心地よさを表現するために織機の歯車を変えて織り上げた逸品です。



CROSSWORD PUZZLE

[クロスワードパズル]

タテ・ヨコのカギをヒントにマス目を埋めてください。

二重マス目の文字を並べ替えてできた言葉を

専用はがきの解答欄(または、はがき)にご記入ください。

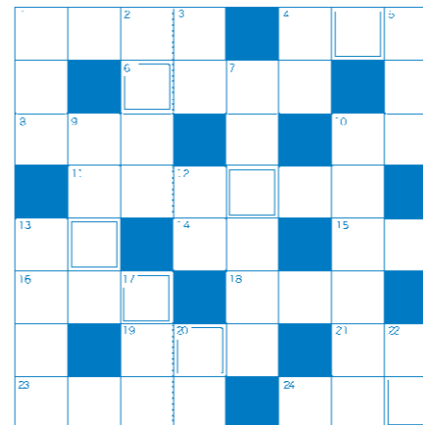
- ご応募の締め切り: 2025年2月21日(金) (消印有効)
- あて先: 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 大崎プライムコア5F
コベルコ建機(株)コベルコ建設機械ニュース編集室

[Web応募フォーム]
PC・スマートフォンからも
お気軽にご応募いただけます!



※ご記入いただいた個人情報
は、当選者へのプレゼ
ントの発送と読者の広場
ページへの掲載以外の目
的では使用いたしません

<https://www.kobelco-kenki.co.jp/inquiry/knews/index.php>



ヒント: コベルコ建機が求心力向上のために
新たに策定した理念体系

答え:

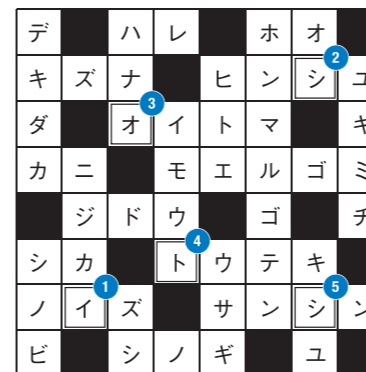
タテのカギ

- 1 少額硬貨
- 2 社会貢献や福祉のための金銭的支援
- 3 紙の代用品。
動物の皮をなめしてつくる「〇〇皮紙」
一時の感情にかられて行動してはいけない
「短気は〇〇気」
- 4 ワッチ、キャスケット、ハンチング。共通するものは?
ユネスコが認定する、人類共通の宝物
- 5 毎日の身だしなみとして、多くの男性が行う
- 6 余裕のある楽な暮らしぶり
- 7 くしゃみ、鼻水、鼻づまり、のどの痛み、
咳、たん、発熱などの症状
- 8 冬に部屋を暖めるために使用
- 9 金属やプラスチックなどを特定の形に
形成するために使用
- 10 議論するよりも証拠を示せば明らかに
「〇〇より証拠」
- 11 重力加速度の単位。
ジェットコースターや飛行機で「〇〇がかかる」

ヨコのカギ

- 1 自分の意見や判断が正しいことを示す証拠
- 2 おじいちゃん、おばあちゃんのこと
- 3 〇〇〇〇かざら、〇〇〇〇ガム、紙〇〇〇〇
- 4 成功者の行為や作品をまねること「〇〇〇〇のどじょう」
- 5 4つの辺の長さが同じで、
どの角も直角ではない「〇〇形」
- 6 九州北西部に広がる日本海の一部。
- 7 宗像大社の3つの宮が点在
- 8 スポンやスカートの下端部分
- 9 関〇〇、増〇〇、消費〇〇
- 10 金融機関に預けたお金に対して受け取る報酬
- 11 日本の神社の入口にある構造物
- 12 茶道におけるさまざまな決まりごと
- 13 液体の容量を測る単位。
アメリカでは1「〇〇〇」が約3.785リットル
- 14 都道府県の行政を統括する最高責任者
- 15 ヒマラヤ山脈にある、幸福度が高いことで知られる国
- 16 〇〇〇型マンション、
ロンドンの〇〇〇ブリッジ、東京〇〇〇

Vol.266 クロスワードパズル 正解発表



正解は「イシオトシ」でした。
多数のご応募ありがとうございました。

Wチャンスのお知らせ

Vol.267にお寄せいただいたすべ
てのはがきを再抽選、50名様に
記念品をプレゼントいたします。
パズルへのご応募のほか、ご投稿、
ご意見など、どうぞお気軽にお寄
せください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代さ
せていただきます

編集後記

あけましておめでとうございます。本号では、新フィロソフィーを取り上げました。「ユーザー現場主義」という言葉や企業理念はこれまでもありましたが、その解釈についてバラつきがあったところ、グループ会社全員で認識を統一しました。『コベルコ建設機械ニュース』でも、常に「ユーザー現場主義」や企業理念に立ち返りつつ、お客様にとってより有益で面白いのある情報を発信していきたいと思っております。また、当社機械をお使いいただいているお客様にも多くお伺いして、その声を社内外にお届けできればと思います。今年も引き続きご愛読くださいますようよろしくお願い申し上げます。(Y.O)

コベルコ建設機械ニュース 新春号 2025年1月 Vol.267
発行:コベルコ建設機械ニュース編集室
企画・編集:日経BP/日経BPコンサルティング/リミックス